

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0471100230
法人名	社会福祉法人 ライフケア赤井江
事業所名	認知症対応型共同生活介護 グループホーム あぶくま
所在地 (電話番号)	宮城県岩沼市阿武隈1丁目8番38号 (電 話) 0223-25-6650
評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20年 11月 21日

## 【情報提供票より】(平成 20年 10月 24日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 3 月 15 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 17 人, 非常勤	人, 常勤換算16.40 人

## (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造平家 造り 階建ての 階 ~ 階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,100 円	その他の経費(月額)	21,000 円	
敷 金	有( 円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	10 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.2 歳	最低	72 歳	最高	95 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	南浜中央病院
---------	--------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム「あぶくま」は岩沼市の南、阿武隈橋の手前に平成17年3月に開設された。建物は採光や手すりに工夫がこらされ、個室の戸の外側には格子戸があり、粋な設えである。管理者は「職員が楽しく仕事をしないと入居者が喜ばない」と考えており、そのことは職員にも徹底され、ケアも明るい方へ明るい方へと誘導し、笑い声を大切にしている。運営推進会議のメンバーを介しての地域とのつながりも深まっている。市で主催する行事への参加をみても、行政とホームとの緊密な関係がうかがえる。4月からの看護師の配置は家族の安心もだが、職員も分らないことや、細かいことも聞ける。また、聞く時は一応調べてから聞くようにしており、考えるようになつたと言う。(職員ヒヤリングより)職場内訓練の実施の効果は注目される。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価では、重度化や終末期に向けた方針について要改善であった。本年4月から看護師が配置され、医療体制加算の指定を受けている。重度、終末に関する指針も策定され、それらに基づいての家族への説明、職員研修も開始している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を全職員に配布し、項目毎に自分で分る事、感じたことを書き入れてもらい、リーダーがとりまとめた。その過程で職員は、地域の人達との触れ合いの大切さを改めて認識したと述べている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議では、地域の催しに関する参加の状況、行事予定などについて双方向で話し合っている。「子供110番の家」の指定などもその成果である。地域の人々のホームの防災訓練に対する理解と協力もメンバーの助力が大きいと思われる。またホームに看護師が配置されたことを機会に、地域の人達を対象にして、勉強会を計画しているもので期待したい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会は月に一度はあるので、その時金銭関係の報告をすると共に、毎月発行の「あぶくま便り」を渡している。便りには入居者別の書き込みスペースもあるので、その時期の状態や暮らしの様子を書き入れて伝えている。病気治療での通院支援や理容店への付き添いなど、職員は家族の状況を理解し、臨機に対応していただけると家族は感謝している。(家族アンケートより)
	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し芋煮会などに参加しており、夏祭りでは子供神輿の休息所になっていて、入居者に喜ばれている。公民館祭り、文化祭、福祉の集いにも積極的に参加しており、地域の子供達がトイレを借りるに気軽に立ち寄るなどしている。運営推進会議の提言により、子供110番の家として指定個所となっており、見守り協力している。近所から畑の収穫物をいただくこともよくある。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）
 取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人としての運営規程等でも事業の目的や入居者の生活等については明確だが、地域密着事業としてはの理念は十分とは言えない。ユニット毎の理念は、具体的であり明解である。更に地域との協力、結びつきについての文言がほしい。	○	ホームでは昨今、地域との協力等に対して、具体的な行動を伴いながら力を入れていることは良くわかるので、そのことを明文化してユニット毎の理念の再検討の際に付け加えていただきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ユニット毎の理念は「あなたとわたし、笑顔と安心、そんな毎日のお手伝い」(たんぼぼ)のように分かり易く、日常のケアの時でも思い起こせる文言である。ユニット別に相談して作り上げたものなので職員の身に付いている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入していて、芋煮会などに参加している。公民館祭り、文化祭、福祉の集いや夏祭りなど、市の行事には積極的に参加している。子供達が立ち寄ることもあり、また、運営推進会議での提言により子供110番の家として指定所となっている。近所からの差し入れもある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は各職員が項目毎に自分で分る事、感じたことを書き、それをリーダーがまとめた。その過程で職員は、家族や地域の人達との触れ合いの大切さを改めて認識したという。(職員ヒヤリングから)。外部評価については、職員全体での検討結果も含め、運営推進会議に報告している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは入居者、家族、区長、民生委員、市の職員、包括支援センターなどであり、2ヶ月に一度会議を開催している。情報を共有し、双方向での話し合いがなされている。「子供110番の家」の指定もその成果である。看護師配置を機会にメンバーの協力を得て、地域で介護に関する勉強会を開きたいとしており、期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	岩沼市との関係は良好である。市の福祉キャラバンを受け入れ、ホームから3名登録している。仙台市医療センター看護助産学校の体験学習(生徒12名6日間)なども受け入れた。ホームは看護師も配置し、医療連携体制もあり、市と連携し「終末ケアについて」の研修会も計画したいとしており、期待したい。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会は少なくとも月に1回程度はあり、金銭関係の報告をすると共に毎月発行の「あぶくま便り」を渡している。便りには入居者個別の書きこみスペースがあり、その時期の様子を書き入れ伝えている。要望としては通院の付き添いの事等が多い。クリスマス会、忘年会などは、家族の要望によって実現している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談、苦情の窓口については、第三者委員も含めて、玄関に掲示している。ホームへの意見、相談を伝える機関はホームだけではないことをケアプラン作成の相談時などに知らせている。家族からは病気治療(通院)や理容などで家族の状況を理解して対応してくれると感謝されている。(家族アンケートによる)		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は職員の異動等による入居者へのダメージについて理解しており、今年度職員の異動はない。異動がある場合、或る日突然ではなく引き継ぎ、紹介するなど助走期間を設け、家族へは「あぶくま便り」で知らせるとしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が半年毎にテーマ(口腔ケア、糖尿病、食欲についてなど)を決め、勉強会を開催している。この勉強会には職員以外にも地域の人達や入居者家族も参加している。NPO県グループホーム協議会に加盟し、主催される研修会、事例発表会などに出席し、ホームでの報告で共有を図っている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	NPO県グループホーム協議会に加盟し、主催される研修会、講演会、事例発表会等に参加している。特に同協議会の仙南支部における交流会参加では、ケアの向上に資するだけでなく、職員同士が話し合うことでの効果も大きい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に本人に見学やお茶飲みなどに来ていただいたり、デイサービスに通っている人には、ホームとも行き来していただくなどしている。職員は、本人が安心する事柄や、言葉を早く見つける努力をし、座る場所についても、落ち着ける場所を見定められるよう気を使っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ちぎり絵を作ったり、畑でじゃがいも、トマトを作ったり、川の土手を1時間ほど散歩することを日課としている人など、それぞれの個性がみられる。100円ショップでの買い物、アイスクリームなどの買い食いも楽しんでいる。管理者は「職員も楽しむ姿を表さないと入居者は楽しくない」として笑い声のあがる場面を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉での表現が苦手な入居者に対しても、職員が積極的に会話を楽しもうとする姿勢で向かい合っている。うまくその場の空気を読んで、思いや意向を引き出し笑いに結びつけることを意識的に行なっている。その人が安心できる言葉を見つけようとしている姿勢を評価したい。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランはモニタリングに基づいて定期的に3か月毎に作成している。入居者、家族やかかりつけ医の意見を聞き、スタッフ全員で話し合っている。特に看護師が配置されてからは、状態をより正確に且つ具体的に把握できるようになった。作成したケアプランは家族に見て、サインもいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の状態に変化がみられた時はその都度、計画の見直しを行なっている。特に退院後などは、医師、入居者、家族、ホームの看護師の意見をもとに、スタッフ全員で検討し作り上げている。家族のサインもいただいている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院時は家族の希望により家族の代行として職員が付き添っている。家族が付き添う時はホームの看護師からのコメントを持参していただいている。同法人のサービスとの交流は親密で、もらい風呂をしたり、その送迎の車でドライブしながら馴染みの知人に会いに行く事なども支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者それぞれのかかりつけ医、主治医とホームの関係を重視している。特に医療連携体制加算の指定を受けてからは、ホームの看護師と共に情報の提供、意思疎通に力を入れている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度、終末期に関する指針を策定している。看護師配置と医療加算について、家族に説明する際に終末期の看取りの指針についてもお話している。職員に対しては終末期についての基礎研修を開始している。職員の勤務シフトについても検討を始めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の名前呼び方については、入居前の状況(家族の情報)や反応などに注意し工夫している。トイレへの誘導は各室のトイレを使うため、「お部屋に行きましょう」と誘導している。個人の情報を扱う文書への記帳、記入については、情報の漏洩に注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	初午、夏祭り、市の文化祭に出かけていき、福祉の集いには入居者の作品を出品、展示即売もしている。職員は散歩の時「干し柿の作り方」を教わり、礼を言うと、「人は教わって大きくなるんだよ」と入居者に言われたとの言葉が、印象的である。レクリエーションインストラクターの資格を持つ職員もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も一緒に席に着き、ケアしながら食事をしている。食材は職員が買い出しに行くが、入居者も一緒に行くことがある。献立は入居者に希望を聞きながら作り、準備や片付けは手伝っていただいている。誕生日には好みのメニューを聞き出し、外食となることもある。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時のケアについては、QC(品質管理)の手法を取り入れ、ユニット毎に改善を図っている。仲良し同士が二人で入ることになったり、帰宅願望のあった入居者が風呂で気持ちよく歌っていたりなどもその成果である。足浴やゆず湯、菖蒲湯など、生活習慣にも配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者が自分の役割を果たす時に一番個性が出るし、生き生きするというのを職員は理解している。モップがけ、手すり拭き、食事の手伝い、片付け、新聞の取り入れ、週刊誌や料理の本読み、ちぎり絵やのれん作りなどである。畑仕事を役割としたり、それを見物するのもまた役割である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の行事には職員を増やし参加への支援をしている。お花見時は弁当を持って出かけ、夏はアイスクリームやあんみつを食べに出掛けている。日常的には川の土手の散歩を日課としている入居者もいるし、ホームの食材買いだし時に一緒に行く人もいる。田舎芝居の観劇をすることもある。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	「鍵を掛けないケア」の意味を職員は熟知しており、玄関は日中掛けていない。居室については当初鍵はなかったが、他入居者の部屋に入る人ができたので、入られる入居者の部屋に家族の了解を得て引掛け型の鍵を取り付けた。内部や外側からも簡単に開けられるものだが、必要がなくなれば廃止するとしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災ずきんを作り、避難訓練に使用している。入居者全員の確認と、災害時の状況対応のため、ホーム名、電話番号入りのネームプレートを首に掛けてもらうなどが、ホーム独自の施策である。消防署立会いの総合訓練1回、ホーム独自の訓練(夜間想定)2回、いずれも町内近隣の協力を得て実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は入居者の意見も取り入れホームで作成し、同法人特養ホームの栄養士に助言をもらっている。残食や体重をチェックしているが、水分補給は疾病等に合わせ、医師の指示によりコップで計量している。看護師の存在は細かい所まで聞けるので、職員は心強いと話している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓から入る光がやわらかな照明として、部屋全体が落ち着いた雰囲気になっている。手すりにも工夫が施され、セミパブリックスペースもある。飾りつけも適度で時計、カレンダー等はきちんと取り付けてある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	たんす等は備え付けになっているが、家族には入居者に馴染みの物の持ち込みをお願いしている。部屋のカーテンそれぞれも違ったものである。仏壇を置いている入居者もいる。温度や湿度もこまめにチェックしており、異臭などは全くない。個室のトイレを使用するので、排泄管理が容易であるとしている。		